midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

１０月号の１枚：雨の森、下草刈り作業で一休み

# 嵐山頂上登山記

## 嵐山は大阪箕面まで東海自然遊歩道約1680kmの最初の入口に当たる山

活動開始は1998年5月だが当時はオウム真理教が大あばれしており、10名の以上団体が森林整備活動だと言って森に入っていくのを町の人々は胡散臭に見ていた。それだけに活動は整備地を転々とし満足できる作業は出来なかった。法人になったのは2002年7月。我々の状態を知った森を守る熱心な町会議員が、今の「相模湖・嵐山の森」の所有者であり、町一番の人望家である故・鈴木重彦氏を紹介してくださった。鈴木重彦氏は神奈川県・県議会・議長を務めた知識と視野の広い方で当時、30名ほどになっていた私たちを快く受け入れてくださった。

この嵐山は高尾山に繋がる東海自然遊歩道約1680kmのルートに位置する山で、県道入り口からよく整備された自然遊歩道に入る。嵐山入口は針葉樹（杉、ヒノキ、松など葉のとがった木）で占められているが、ジグザグに遊歩道を登るつれ広葉樹（柿、紅葉、楓など葉が開いている木）が占められてくる。樹種も多く楽しく散策できる。
中間程まで登ると昔、山小屋があったという広めの空き地があり、相模湖が一望できる。やや疲れた身体には美しい風景とそよ風が心地良い。その先は、少しずつ急坂になるがジグザグ路に変化があって登ることが面白い。歩くこと10～15分、頂上の気配が迫ってくる。最後の急坂は丁寧な桟木階段になっていて登り切った処が頂上、パッと視界が広がる。
南方眼下に相模湖全貌、そのずっと先に山並みが連なり晴れの日は富士山が美しく神々しい姿をみせている

北方眼下は、相模湖・千木良（ちぎら）集落が広がり高尾山（標高599m）となる。山頂やや奥に「霊宮神社」が祀ってあり信者の方々が定期的に森に感謝を下げている。十数年前、南北の眺望を良くするために枝葉を掃ったが、また検討してみたい。兎も角、居心地の良い場所である。

石村　黄仁（本会、代表理事）

## 今月の定例活動 2016.10

10月 2日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上
知足の森/若者の森づくり
いずれも弁当持参。参加費：４００円
10月16日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

## [定例活動]小原本陣の森

9月4日（第一日曜日）

川田さんより９月に小原地区活性化協議会で、孫山登山道の整備に数人で入るとの情報が話されたので、長福時ルートとの連携を関係づける意味で、小原の正規登山道入り口から孫山頂上までを歩くことにして、二人で登山道入り口の道標が草で覆われて確認しづらいという事から始めた。

丁度入山口が近所住民の駐車場にもなっており、駐車場周りの草刈りのようになった。たまたま住民のワゴン車がお子様を降ろす場面に出くわし、丁寧に挨拶された。（駐車場の草刈と勘違いか？）孫山に続く稜線までは、ジグザグの急登になるが、人が歩いた形跡はなく、道が草で覆われ道を迷うところも数か所あった。特にアオキが大きく成長して道を閉鎖している。入り口から75分かけ稜線の石碑まで入念に仕上げた。相模湖が見渡せる絶好のポジションにも関わらず目の前の樹が視界を邪魔しているという事で、手分けして鋸で倒したところ風が通り、視界も断然改善した。休憩のためのベンチも壊れていたが、修理する気力がないくらいバテている。昼食は孫山でという事にし稜線を一路孫山にとる。

丁度、嵐山の基地当たりが見えるようになったので、基地で作業をしているハズの角田女史に携帯で連絡、手を振るのが確認できるかを確かめたかったが・・・内緒。稜線沿いの道は広くさすが道を覆う草はないが、倒木が行く手を阻んでいる箇所が6～7か所あった。二人で取り除くには力仕事だが、怪力小林が活躍して難なく・・一か所末口50～60㎝の大木が道を遮断している。これは二人では敵わないので自然の造形として温存することとした。

孫山頂上までの西斜面尾根に、長福時から登頂してくる宮村さんと子供たちと約束した合流地点がある。見極めながら頂上まで登り、遅い昼食を取っていると20分くらいで合流点に到着するとの連絡があった。急いで下山すると、ガヤガヤと子供たちの元気な声が聞こえたので合流地点はすぐ判った。頂上からそう遠くないところが合流地点だ。早速、長福寺への直下ルートを地図とGPSを頼りに下る。

幸い、そのルート上に古いトラロープが張ってありすぐそれと判るが、登るとかなりの急登になると思われる。樹木に架るツタにぶら下がりターザンのようにはしゃぐ子も居れば、高所恐怖症の子もおり、それを気遣う母の様な（口だけ）女子も居り我々も愉快に時間を忘れて、あっという間に下山することが出来た。40～50分掛かったのではなかろうか。

到着した場所は、お寺のお墓の裏手で、本来のルートより北に少しずれたようだ。小原以外の地区からの孫山登山ルートが整備されると稜線のハイキングコースは軽やかなルートになっており、ファミリー向けの半日ルートとして紹介できるでしょう。

後日談、10/2の小原活動で、9/24に小原地区協議会で整備のため入山されたとのこと。きれいに整備されて助かりましたとの報告を受けました。ボランティア名利です。

小林　照夫（本会、理事）

## [定例活動]知足の森

9月4日（第一日曜日）

知足の森定例活動では、午前中に測量が終わっている付近の草刈りと午後からは新しく所有林と予想している区画の踏査を行いました。とはいえまずは台風の影響か直径５０センチはあろうかという倒木が２本沢にかかっており、もはや中高生にはお手上げ、ということで、フォレストクラスのプロ２名と処理の下見。さらに払えるところまで枝を払いました。よく見るとその大木２本が小中の木３本を倒しているので、その小さい方を玉切り、そのまま沢にかかる橋として生かしています。知足の森はこういった目先の処理がまだまだで表紙写真にも写っていますが、保安林指定もされているところがあり、どのタイプの保安林なのか調べてなければなりません。もちろんそれに並行して所有者である長福寺さんが持っている山がどこからどこまでか、それが地図上で、また現地で把握できなければならないことも課題となっています。

ということで、午後からはまだ歩いたことがない斜面を中高生１０名近くと歩くことにしました。実は数年前、小原本陣の森の尾根を１周ぐるりと歩いているはずが

反対側の美女谷のほうへ降りてしまった苦い経験があります。尾根沿いを歩いているつもりがついつい隣の尾根に入ってしまい、という難しいポイントがあったことが分かったのはだいぶ後になってからです。今ではそこには道標があるので、そうそう間違うことはないのですが、今回の尾根は会としても初めて歩くので、山頂付近で川田さん、小林さんと合流しての調査としました。（とはいえ、それも地図上でここで落ち合うというちょっと心配ではありましたが、ばっちりのポイントで合流できました。）今回は日本が打ち上げたGPSの精度が飛躍的に向上すると言われている人工衛星のひとつ、みちびきの電波が拾えるGPSという強力な味方を使い、順調に歩き始めました。地図上の地形、GISから読み込んでいる尾根を曲がるポイントの位置座標、GPSによる現在地のトレースを比較しながら進みました。小林さんの報告にもありますが、お寺の所有区画北側境界線には結界のためかトラロープがまわしてあり、ここまでは順調に移動できました。問題は尾根のどこで、お寺に向かって進路変更するかで、GIS上では読み込んだ地図から分かっても現地ではなかなかその位置がつかみきれませんでした。まだ地図上でどこまでが所有林かも確定していないので、予想する区画の境界線沿いには歩けていました。右の図はGoogleEarthに落としたものですが、水色内側が我々が予測する所有林です。一方最後の最後でこれは目的とする境界線じゃない、と考え、試行的に９０度曲がりました。その結果見事お寺の墓地に突き当たり（矢印ポインタがあるところ）、やはり予想する目的地、青と緑の接する地点とはずれていました。しかし、地形的には歩いた水色の線が所有林であり、それに対応する境界線もあります。最終的には公的な資料による地番の調査が必要です。いずれにせよここまではかなり正確に歩けており長福寺所有林の全貌は見えつつあります。また同時に青色で囲まれている内側の手入れがされていないことも分かり、この付近もやはり間伐が必要なことがわかりました。中高生たちは歩いたことがないルート、というだけで大興奮、あれやこれやと地図を見ながら歩き、お墓に着いたときには歓

声が上がっていました。今回のルートはお墓の右側から山に上がって反時計回りに歩いて、左側から出るという経験も彼らからは？？という感覚があったようで、こうやって人は簡単に森で迷う、という経験、迷ったわけではありませんが、いい経験ができたようです。ただし、高校生で森の作業をしている子からすれば、広すぎてとても自分たちでは作業しきれない、と話しており、そういう理解もできるようになっているのも収穫です。

宮村　連理（本会、副代表理事）

## [定例活動]相模湖嵐山の森

9月18日（第三日曜日）

秋らしい空が続き、キンモクセイの匂いが街の中を包む季節になりました。９月の行われた嵐山定例活動は、相模湖駅に到着した頃から、やや雲行きの怪しい天気が続いていました。嵐山に着くと、それまでどうにか雨が降らずに保っていた雲から雨がポツポツと降ってきて、数分もしないうちにザァーザァーと雨足が強くなっていきました。

そのため、森林整備班を中心としたグループは「かどや」にてミーティング（交流センターも公民館も空いていなかったからで、昼から、、、ではありません）、フォレストノバと地球環境部は森に残り天候をうかがうことにしました。

森林整備班は少なくお花畑班の方と含め雨の中での活動は高齢者に毒と早々判断し、午後からかどや寄席の頭数にもなると判断し開始まで二階で、ミーティング（普段話せないことも多々あることだし）をおこなった。前回の小原～孫山ハイキングコースについて報告をした。

昼食後かどやの主人の肝入りで定例化している「かどや寄席」を

鑑賞させて頂いた。当日券1,000円、前売り券800円だが、誰の発声か前売り価格交渉をすることになり、伊藤さんがその役を仰せつかり、見事に前売り価格で落着し、10名近くが購入したものの、落語を鑑賞したのはその半数程度で、鑑賞しない方の分は寄付する

ことで決着し、かどや側も満足であった。三遊亭〆治師匠の落語が二題時間にして1時間あった。江戸時代の庶民の人情ものの話でまじめな内容で、申し訳ないが張本人の伊藤さんまで、爆睡をされていました。これは噺家に申し訳ないと、目を開けてしっかりフォローをしている会員のバランス感覚はさすが緑のダムだと感じました。当然私も眠ってはいませんが、話の内容はここでは書けません。（小林照夫、本会理事）

一方、森に残った若者たち、Forest Nova☆は30分ほど待ち、雨足が落ち着いてきたときを頃合にB地点のムササビの森に移動しました。森の中は木の枝が広がっていることもあり、それほど雨粒は感じられませんでした。雨が降ると地面が滑りやすくなってしまい危険なため、今回は以前間伐をして2m間隔に玉切りを施したヒノキの丸太の皮剥き作業を行いました。伐採をした木材を放置しておくと皮が剥きにくくなるばかりか、辺材と皮の間にあり、水分や栄養を運ぶ管に虫が入ってしまい腐食させてしまいます。今回の活動ではそれを防止するために調理に使用するピーラーを長くしたような道具を使用しました。一年生はその道具を木の切り口に当てるのですが、中々木の皮が剥けず四苦八苦していました。徐々に力の入れ具合にも慣れてきたのか、約2mの長さのある丸太の切り口の先から下まで一気に木の皮を剥いてしまいました。午前の後半には来月活動を担当してもらう一年生二人に、来月どんな活動をするのか考えてもらうべく、B地点の経路の上の方に移動したり、話し合いを進めて行ったりしました。

またお昼には、Forest NovaのOB・OGであるForestTo Classの先輩方がスウェーデントーチ（スウェーデン式の焚き火）とダッチオーブンを使った鶏肉の黒ビール煮をご馳走してくれました。ダッチオーブンのおかげで短時間で鶏肉はふわふわとした食感になって非常に美味しかったです。

自分も森に初めて来る人を相手にするときに、その人の興味のあることと森を近づけられるように様々な知識をもっていきたいと思いました。（釜谷優太、Forest Nova）

もう一つの若者グループ、地球環境部も森に来たのだから、と雨の様子をうかがう。桜井尚武先生から、雨で森に入るなら、と注意事項を教えてもらう。いつも滑らないような所でも滑ること、滑るのは足だけでなく手も。ノコギリでケガをしたり、自分を切ってしまうことが多いこと、などなど。雨で浮ついていた子どもたちの目に真剣さが戻る。さすがのタイミングの桜井先生に感謝です。作業は無事に終えることができました。

（宮村連理、本会副代表理事）

今月は残念ながら雨模様となり普段とは違う形での定例活動となりましたが、各活動班ごとに工夫し、雨なりの活動、雨でも休まずボチボチと、を地で行く活動日となりました。

## [報告１]

### 相模湖・若者の森づくりから

### ～ForesTo Class

9月18日、嵐山の定例活動にて、今月4日に間伐した丸太でスウェディッシュトーチをやり、鶏肉とじゃがいもの黒ビール煮をつくりました。雨で湿った木でも一度火がつけばなかなかの火力です。

スウェディッシュトーチとはスウェーデン式たいまつの意味。最近では、某飲料メーカーのノンアルコールビールCMにも出てきて、バーベキューをしているシーンが印象的です。今まで間伐した木材をすぐ利用する機会がなかったですが、こういった利用で参加者に楽しんでもらうのも面白いと思い試みました。

丸太や火の後始末を十分配慮しながら、森に集まる仲間のつながりをつくっていくための体験　イベントのプログラムとして考えていきたいです。

滝澤　康至（ForesTo Class）

## [報告２]
### 相模湖・若者の森づくりから
### ～地球環境部

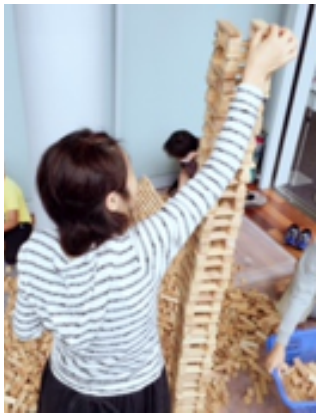
９月の嵐山の森は雨。そんな雨の活動で中学生が何を感じて活動を行ったか、ご紹介します。

初めての雨の中での活動だった。普段と比べて森はどう違うのか、少し楽しみにしていた。いざ森に入ってみると雰囲気がまるで変わっていた。言葉で表現するのは難しいけれど、晴れや曇りのときよりも静かな感じがする。今回は間伐をせずに下草刈りをやったが気温がほどよく作業しやすかった。活動を始めることには雨が弱くなりいいことばかりだった。その反面、気をつけなければいけないことも覚えている。雨でぬかるんだ地面に気をつけることやのこぎりをすべらせないようにすることだ。作業した場所はわりと急な斜面だった。まあ少し滑るくらいならいいとしてものこぎりをすべらせてしまったら本当に危ない。自分は安全に作業できたと思う。今回の森も様々なことを経験できた。次の活動はどんなことができるか楽しみだ。（中学１年生・女子）

山に行くとそこは雨が降っていたのです。「３０分止まなかったから山で探検、止んだり小雨になったら作業」どちらにしろ山に行くのかと思いつつ少し待つと雨が弱まり、僕らは山で入っていきました。まず感じたことは足もとの不安定さ、木や枝の上に足を置いたら滑ってしまいそうです。しかし、泥のぬかるみはさほど感じませんでした。考えてみると木々が雨粒を防いでいるからかと思いました。作業で辛かったのは前回運んでいなかった丸太の運搬です。普通の山でも丸太運びは大変なのに雨が降って足もとが悪いなか、いつもより周りに気を配り無事に作業を終わらせることができました。今回の山は雨が降ったことでいつもと違う雰囲気で緊張感をもって作業を進めることができました。いつもの活動でも緊張感をもって作業していきたいです。（中学２年生・男子）

## [報告３]
### 小金井環境フォーラム
### プレイベント報告
**『「つ」くる「み」がく「き」づく』**

9月17日から19日までの3日間、小金井環境フォーラムのプレイベントが行われた。このイベントでは、積み木で「法隆寺を作ろう」と題したワークショップブースと各自が積み木で作品を作ることができる自由体験ブースが設けられた。積み木は三鷹市の中学生が取り組む森の保全活動によって作られた間伐材が使われており、積み木で遊ぶことで森を守ることができるのである。
イベント全体には延べ150人程度が来場し、盛り上がりをみせた。
ワークショップは、法隆寺を作るという企画で、設計図はなく、法隆寺の写真だけを見て参加者が意見を交換しながら試行錯誤したため、各回それぞれ違った色を持つ作品が完成した。ワークショップ参加者へのアンケートでは、「楽しかった」という回答が多くみられた。「積み木のにおいや音に癒された」という感想や「森に親しむよい機会になった」という感想もあり、積み木で遊ぶことで、自然を身近に感じるというイベントの目的は果たすことができたと言える。
自由体験では、参加者各々が作品を作った。ある規則に従い、高く積み上げていく方や、家やお城を作り、ごっこ遊びをする方などがいて、たくさんの作品が出来上がった。普段はブロックやゲームで遊ぶと言っていた子どもたちも、普段触れない積み木で遊ぶことができ、楽しんでいる様子だった。
また、その場で知り合った学校や年齢が違う子ども同士で一つの作品を作る様子も見られ、良い交流の機会になっていた。



全体を通して、参加者全員が楽しみながら自然について考えることができたイベントとなった。

荻野　あかり

## [報告３]
## フォレストキッズスクール報告その２

先月号ではスタッフ参加した大学生のコメントを紹介しましたので、今月号では高校生の感想をご紹介します。

小学生に森を体験してもらうフォレストキッズスクールにスタッフとして参加させていただきました。小学生の面倒を見ることが主な仕事でした。大勢の小学生を相手にすることはあまり経験がなく、不安なものでした。実際に普段の作業よりもさらに気を遣って、危険のないようあたりを見渡していなくてはなりませんでした。このような状況で、普段の作業の中にも参加している中学生が、しっかりと小学生の面倒をみて仕事をしている姿は、いつもの姿よりも頼り甲斐のあるようにみえました。また、このような経験は自分にとってはじめてのものであり貴重な体験だったとおもいます。

牧野　佑紀
（早稲田大学高等学院１年）

## [事務局より]

### 相模湖ふれあい広場に森の積み木１万個を出展します

10月16日日曜日に、相模湖商工会が中心となって行うイベント、「森と湖の優しさを分けてあげたい～相模湖ふれあい広場2016」に積み木の貸し出しを行います。場所は相模湖林間公園で、相模湖駅から無料のシャトルバスが出ます。時間は９時半から１５時となります。「働くクルマとスーパーカー」「ミニSL」など楽しい企画がありますのでぜひご参加ください。ちなみに本会の定例活動日となっておりますので、二股参加も歓迎です。

### 小原本陣祭の大名行列にForestNovaが参加します

こちらも毎年恒例となっております11月3日文化の日の小原本陣祭（10時から16時）にForest Novaが参加します。

今年も大名行列に参加しますので、現地で大名行列からメンバーを捜してみてください。

### 参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

### 危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

## NPO法人
## 緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１８年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636

支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所